

# 令和8年度 第1回鹿島小学校運営協議会

会場：鹿島小イングリッシュルーム

2026年4月16日

## 1. 会長あいさつ

- ・地域の方と子供たちが挨拶をしている様子を見て、感動した。地域とのつながりがあって良い。
- ・大人になるということは良いことなんだと思うことが小学校のキャリア教育だと思う。そのようなところで、子供と地域との関わりの潤滑油になるのが学校運営協議会だと思う。よろしくお願いいたします。

## 2. 校長あいさつ

- ・日々、子供たちの成長を感じています。今年度もよろしくお願いいたします。

## 3. 令和8年度学校運営協議会委員の紹介

- ・順天堂大学教授 ・青少対対策委員会会長 ・鹿島連絡協議会
- ・民生児童委員 ・鹿島学童施設長 ・聖徳大学多摩幼稚園園長
- ・かしいもの会（保護者と教師の会）会長 ・学校コーディネーター
- ・学校安全ボランティア ・鹿島小学校校長
- ・事務局（副校長、主幹教諭）

## ※配布資料について

- ・学校運営協議会企画事業予算執行計画書について
- ・八王子市立学校サポートチームについて

## 4. 学校いじめ基本方針について

- ・未然防止、いじめを許さない。
- ・日頃の授業や道徳の授業を通して指導していく。
- ・毎週火曜日に設定されているいじめ対策委員会にて児童の様子について共通理解している。
- ・いじめられる方にも理由があるという考え方は決してしない。

## 5. 令和8年度の教育活動について

- ・学校経営基本方針について

笑顔、元気、愛情をあふれる学校を理念にしている。

明日学校に行きたいと思えるように努力している。

子供が元気であるためには、周りにいる先生、保護者、地域が元気でなければならない。

トリプルAプラス1 学校で一番育てたいのは、コミュニケーション能力。

コミュニケーションの形はそれぞれ違う。それも踏まえて育てていきたい。

小学校は結果だけでなく、一生懸命やっている過程を評価できる場所である。

中学校での受験は相対評価なので。頑張っても落ちてしまうことがある。その時にどのように気持ちを

もっていけるか。その頑張りを自分自身が納得できるかどうか大切である。

自分たちが子供の時には競争ありきだったが、今は時代が変わってきている。

一番やりたいことがあるなら、それに向かっていけば良い。手に職を付けるのも良い。

子供は親が一番近い。その次に近いのは先生たち。その人たちを信じられる子供を育てていきたい。

鹿島小学校は子供ファーストでやっていく。

子供の些細な変化にも気付くこと、スピードが肝心、多少間違えても良い。とにかくすぐに対応する。

失敗してもとがめない。子供に対してもそう。

今年やることは、「ありがとう」(精神論)。あまり直接的には成果が見えないかもしれないけれど…。キャリア教育については、これまでの学校の活動とどう結び付けるかということで考えている。「希望あふれる9年間 三校合同 51years」として松が谷・鹿島地区の特性を活かし、社会的自立に向けて実践的態度を育成する。

私の考える「自立」とは。自分が立たせてもらうこと。かわいがられる人になってほしい。困っていたら助けてあげたいと思ってもらえるような人になってほしい。⇒コミュニケーション能力の育成。しかし、これができるのは中学生。

「自然に触れる土からの生産活動」⇒農業学校 これは、1年間や2年間でできることではない。

最終的には、育てたサツマイモを売るという活動まで視野に入れ、経済的循環を経験させたい。

PTA活動は全国的に年々衰退している。保護者が働いているため。しかし、存在していることが大切。

昨年度はその活動での収入を使って、学校の児童に還元するために図書室に置く本を購入した。

学童さんでも作った野菜を売ることを検討している。

学校の畑を耕しているのは教員。それを地域の方にお問い合わせすることを検討している。子供に野菜を育てる様子を見せてもらうため、現在学校の畑を開放することも考えている。

江戸東京野菜の高倉ダイコンを昨年度から育てている。コンニャクイモも学校で育てていきたい。このような活動を通して、仲間と協力することを学ばせていきたい。

## 6. 情報交換

(次回行う。)

## 7. 年間計画と今後の予定 (瀧村校長)

6月に3校合同。会場は松が谷小学校。